

(2) 教科指導

高校 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
国語	①高校国語への生徒の興味・関心を拡充・深化・定着することで高度な国語力を育てる。 ②知識、そして内面的な精神生活といえる教養を身につけさせることで生きた国語力を獲得させる。 ③生徒一人ひとりの進路希望を達成できる国語力を身につけさせる。 ④各コース間の情報を共有することで教職員相互の連携を図る。	①授業内容の工夫に取り組み、国語の学習への関心を高める。 ②授業内容を充実して質を高めるための有効な教材を精選して活用する。 ③入試情報を教職員で共有し、生徒の国語指導に役立たせる。 ④中高一貫の副教材について教職員で共有する。	B	コロナ禍の一年でしたが、ソーシャルディスタンスを考慮して国語科の先生方の連携を大事にして、生徒たちへの授業に取り組みました。①現代文・古典ともに生徒の興味・関心を高める為の授業内容の工夫にしっかり取り組むことができた。②教材研究を深め、授業内容を充実して質を高めることで生徒達に教養を身につけさせることができた。③国語に関する情報や入試情報を国語科の中で共有し、生徒の国語指導の強化に役立てることができた。 ④中高一貫の流れについて国語科の中で共有することで、授業での取り組みをより一層強め、広げることができた。 ③学期ごとに体育用具の点検・修繕・補充を行い、休憩や水分補給は十分に行うことができた。 ④講義の時間を多めに取っの中で工夫の連続でした。学びを深める授業展開に苦勞しました。又、共通テストなどの大学入試制度の変化への対応もありました。しかし、目標を実現する為に努力を重ねたと考えています。
地歴公民	①基礎的な知識を身につけ、理解を深める。 ②社会事象に、興味関心を持ち、主体的に考え、行動する力を養う。	①授業内容の工夫に取り組み、基礎的な知識を習得できるように指導する。 ②新聞やテレビ、インターネットなどの情報を授業に活用し、世界や日本国内の動向に目を向けさせ、興味関心を持つように指導する。	B	各科目ごとに、新聞や視聴覚教材等を用いて、授業内容を工夫し、基礎的な知識を習得させることができた。さらに改善点を見つけ出し、努力を重ねたい。
数学	①生徒の、高校数学への興味関心を高め数学的な考え方を育てる。 ②各自の進路希望を達成できる、数学の学力を養成する。 ③各コース間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、効果的な生徒の育成につなげる。	①授業内容の工夫に取り組み、数学オリンピックや数学甲子園等へのチャレンジを促し、数学の学習への関心を高める。 ②基本となる授業内容の質を高め、教材の精選を図る。 ③入試情報などを共有し、生徒の進路達成に役立たせる。	B	授業への取り組みを通して、生徒の数学への関心を育てることはある程度できているが、まだ十分ではない。コースごとの異なる進捗、取り組む教材の難易度に差があるので、担当の教師の創意工夫が一層必要となる。教員間の共通理解をさらに進めて次年度に繋げたい。
理科	①実験、観察を通じた思考力を高める授業 ②進路目標達成のための学力の保障	①実験器具の整備と実験内容・問いの工夫、感染対策。 ②低学年からの学習習慣定着と授業の質の改善、高学年での演習の徹底。	B	①実験器具の整備や実験への取り組みについては、今年度は新型コロナ感染症の予防を優先して対応した。 ②物理・化学・生物・地学の各分野とも、中高一貫で教える流れについて確認しつつ定着を図ることができた。

高校 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
保健体育	①体力の向上 ②基本技術の向上 ③事故やけがの予防・防止に努める ④感染症について知り、感染予防と対策に務める	①準備運動や補強運動、ランニング、体づくり運動を積極的に取り組む ②基本の大切さを理解し、反復練習を根気よく実践する ③体育用具や施設・設備の点検、ウォーミングアップやクールダウンの実施、休憩や水分補給の励行 ④情報の収集、三密の回避、マスクの着用、消毒の徹底	A	①ソーシャルディスタンスに配慮しながら、体力向上に向けての取り組みは積極的にできた。 ②コロナ対策で基本練習を工夫し、ゲーム練習を少なめにしたため、基本技術の向上につながった。 ③学期ごとに体育用具の点検・修繕・補充を行い、休憩や水分補給は十分に行うことができた。 ④講義の時間を多めに取ったことで、感染症について例年以上に考えることができ、予防や対策も習慣化したように思える。
外国語	①「新テスト」に対応するカリキュラムの充実 ②①に関連する外部検定試験対策 ③英語関連大会参加の活発化	①ALT（外国人指導助手）をもう1名加え、4技能5領域スキル獲得のためのAL（アクティブラーニング）を充実させる。 ②4技能アプリを導入し、GTECへの取り組みを拡充する。各学年でGTEC全国平均を10ポイント以上上回ることを目指す。 ③ディベート大会、スピーチコンテスト等で全国大会を目指す。	A	①ALTを1名増員して頂き、ALの充実が図れた。 ②本年度の成績はまだ送付されていない（1/26現在）。昨年度は全員実施した学年でGTEC当該学年の全国平均を以下のように上回った。 （本校／全国） 中2 540.7/457（+83.7） 中3 687.4/638（+49.4） 高1 791.7/724（+67.7） 高2 846.5/772（+74.5） ③PDA主催のパーラメンタリーディベート（即興型英語ディベート）で全国大会に出場した。
家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学びあう ③現代の社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習、実験内容の精査 ③研修、研究の実施	A	食生活・衣生活・保育を中心に家庭科の基礎基本を身につけるような授業ができた。実習については、刺し子の被服実習に取り組んだ。研修は昨年を引き続き、認知症フレンドリー社会に生徒たちがアップデートできるような教材研究に取り組んだ。
情報	①情報Ⅰへの移行を踏まえ、プログラミング領域の教科を図る。 ②また、ICT環境の整備を充実し、教科情報の基盤作りを強化する。 ③各教科での情報活用能力育成をにらんだ基礎的な技能や思考力を更に充実する必要がある	①プログラミング言語の教材導入ができ、高校3年生及び2年生に重点的に指導を行っている。 ②一人1台のタブレットPCの導入を中学校で実現できた。また、中学高校の全クラスにプロジェクトを常設した。 ③探究活動を積極的に取り入れ、その際にICT環境が積極的にいかされた。	A	①情報の共通テスト導入を踏まえ、プログラミング言語領域とデータ分析の領域の強化を更に図るべきである。 ②ICT環境を情報の観点から整備が急速に進んだ。今後は一人1台の環境をより積極的に活用する方向に向かうべきである。 ③全教科で情報活用能力を意識した授業が更に実践できるようにしていくことが今後の課題である。

4段階評価	A:大いに改善あり B:だいたい改善あり
	C:やや改善なし D:全く改善なし